

伊藤由孝・小川政弘作 「シラケ時代」

先生 いいかみんな、このA点とB点の延長にC点がある。で、つまりここは、こうなるんだ。

効果音 (雨の降りだす音)

男子A おい、雨だぜ。

男子B なんだよ、せっかく昼休みに中庭でキャッチボールやろうと思ったのに。チクショー。

先生 おい、そこの2人、何話してんだ？

効果音 (終業のチャイム)

伊藤 起立。礼！

ナレーション 昼休みなのに、雨のため、2年B組の半数以上の人たちが、クラスに残っていました。

今村 ほれ。これ見ろよ。

男子A あ、本当だ。大型免許。

男子B 本当でやんの。大型免許。

今村 しょせん、お前らとは腕が違うんだよ。

男子A おい今村、何回で受かったんだ？

今村 えー20… 25回。

男子B ヘン、どうせそんなもんだろう。

男子A バイク、何乗るんだ？ 55かよ。

今村 55じゃねえよ。ナナハンさ。もう中古で買ってあるんだぜ。明日の土曜、日曜、日光までツーリングさ。

男子A バカで一。日光だと。あいつ、きっと事故るぜ。

男子AB (笑い)

ナレーション 今村君と以前一緒に生徒会の仕事をした中の伊藤君が、心配そうに尋ねます。

伊藤 おい今村。大丈夫かよ。まだ免許取ったばっかだろ。

今村 ナナハンなんか、乗っちまえば関係ねえよ。平気平気。

ナレーション 次の日、今村君は、学校を休み、ツーリングに出かけました。そして月曜日——。今村君は学校に出てきません。

伊藤(モノローグ) あいつ、まさか、事故起こしたんじゃねえだろうな。

効果音 (ガヤ)

先生 静かに！ 授業に入る前に、今村のことで話すことがある。今村は、同曜日、無断欠席をして、バイクで日光に出かけた。日曜日の帰りに、事故を起こし、重傷を負った。3か月くらいはかかるそうだ。ここにいるみんなは、今村みたいなバカなまねはしないように。それでは授業に入る。

伊藤(モノローグ) 今村が?! そんな…。

音楽 (重苦しいブリッジ)

ナレーション 伊藤君は、今村君が事故を起こしたことが信じられませんでした。そのため、昼休みに、今村君の家に電話をかけ、詳しいことを聞きました。

そして次の自習時間。伊藤君は、何を思ったか突然、教壇に出ました。

効果音 (教室のガヤ)

伊藤 おい、みんな、静かにしてくれないか。今村のことで話があるんだ。

男子A うるせえな。てめえこそ静かにしろよ。

男子B 全く、去年生徒会長やったからって、偉そうなツラすんなよ。

伊藤 そんなこと言わず、おれの話聞いてくれ。今村は、左足、左腕、そのろっ骨を何本か折ったそうだ。あいつ、きっと病院でがっくり来てると思うんだ。

男子A そらあ、今村がよ、大型の免許をチラつかしてるから、こんなことになったんだろう？

伊藤 それは、あいつにも悪いところはある。しかし、今村を元気づけるためにも、一人でも多く見舞いに行くことが必要だと思う。

男子B そんなに行きたきや自分で行けよ。こっちゃ、そんな暇ねえよ。

伊藤 そうか、分かった。これ以上話しても無駄だな。おれ一人、見舞いに行く。

ナレーション 伊藤君は、クラスの友達の冷たい気持ちが腹立たしくて仕方ありません。でも彼は気を取り直し、数日後、今村君のところにお見舞いに行きました。

効果音 (病室のドアをノック)

今村の姉 どなたですか？

伊藤 初めまして。今村君と同じ学校のクラスメートの伊藤です。

今村 姉さん、だれ？

姉 伊藤君よ。

今村 ああ、伊藤か。

伊藤 「ああ、伊藤か」はないなあ。今村、ケガはどうだい？

今村 見てのとおり、体中包帯だらけだよ。

伊藤 そうかあ。悪いな、今村。今日はみんな忙しくておれ一人しか来られなかったんだよ。

今村 分かってる。別に期待してないよ。どうせクラスの連中は、友達なんてのは形だけ。クラスから一人二人いなくなったって、自分には関係ねえってやつばかりだからな。

伊藤(モノローグ) 実際、今村の言うとおりで。このとおり、見舞いに来たのはたったおれ一人。

今村 おい伊藤、そうなんだろう？ 顔に書いてあるぜ。

姉 和彦！ 伊藤君にそんなこと言ったってしょうがないじゃないの！

今村 (泣きながら)伊藤、帰ってくれよ。お前の顔なんか見たくねえよ。

伊藤 分かったよ。今村、今日はこれで帰るよ。じゃ。

姉 伊藤さん、気を悪くならさないでね。ほんとは弟、とてもうれしかったのよ。

伊藤 あのこれ、今村君の木が鎮まったら、彼に渡してください。

姉 まあすみません。なんですか？

伊藤 僕、クリスチャンなんです。それでこれ、聖書なんです。

姉 分かりました。今日はどうもありがとうございました。

伊藤 じゃあ失礼します。

ナレーション 伊藤君は、その晩、今村君のことで神様に祈りました。

伊藤 (祈り)愛する天のお父様、僕は今日、クラスの友達の冷たさを知りました。確かに、今村にも悪いところがあります。しかし、それだからと言って、クラスの友達が彼を突き放してよいのでしょうか？ 僕は今日、今村のところに見舞いに行きました。彼は大変苦しそうでした。どうか天のお父様、今村が一日も早く治るよう、彼のけがを、そして彼のすさんだ心をいやしてください。

ナレーション こうして伊藤君は、毎日今村君のことを祈りました。それが天の神様に通じたのでしょうか、今村君は、3 か月と言われていたケガも2か月でよくなり、松葉づえをつきながらも、歩けるようになりました。

そして、今日は待ちに待った退院の日——。

音楽 (ブリッジ)

伊藤 よかったな、今村。明日から学校だなあ。

今村 うん。伊藤、この2か月、よく見舞いに来てくれたなあ。本当にありがとう。クリスチャンの友情ってやつが分かったような気がするよ。

伊藤 いやあ、照れるな。いいんだよ、そんなこと。

今村 それからこの聖書。初めはお前に悪いと思って、いやいやながら読んでいたんだ。だがそのうちに、目を離すことができなくなってしまった。クラスのみんをバカにして、自分勝手なことばかりしてきた自分の醜さが、だんだんはつきりしてきたんだ。

伊藤 そうか。よかった。だれ土おれだって同じさ。神様を離れてしまった人間は、みんなそうなんだよ。

今村 うん。だけどイエス・キリストっていうお方は、おれのような人間のために十字架にかかって死んでくださった。ほら見てくれ、伊藤。ルカ伝まで読んでいって、この23章34節に来た時、おれはくぎ付けになった。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」読み返しているうちに、涙が出て止まらなかったよ。“おれが、このおれがキリストを十字架に付けたんだ”って。

伊藤 うん。主はおれたちの罪を全部身代わりに負って死んでくださったんだ。そして、最後の24章ではよみがえられたろ？ このお方こそ生ける神、お前の、そしておれの救い主なんだよ！

ナレーション 次の日、今村君は、伊藤君に付き添われて学校に行きました。ところが、久しぶりに今村君が登校できたというのに、クラスのみんは——。

男子A あ、こいつ松葉づえして、ちゃっかり学校に出てきやんの。

一同 (笑い)

ナレーション バカにされながらも、自分の席に向かう今村君に、だれかが横から足を出しました。

今村 あ、い、いて！

男子B おい、寝るなよ。

一同 (笑い)

伊藤 今村、大丈夫か？

今村 (痛そうになる)

伊藤 (生徒らに)お前ら、苦しんでいる人間をバカにしといて、何がそんなにおかしんだ?! それがお前らかよ！

ナレーション こう言うてから、倒れている今村君を助け起こそうとすると——。

今村 だ、大丈夫だ。手を離してくれ。自分一人で起きるから。

ナレーション そう言うて、彼は歯を食いしばって起き上がろうとしました。

伊藤 お、お前らは、なんて腐ったやつらだ！ 見ろ、今村を！ あいつの足の骨は針金でやっと留めてあるんだ。あいつは今まで死ぬような苦しい訓練をして、やっとここまでこぎ着けたんだ。お前ら、“自分があいつの立場だったら”って、どうしてこれっぽっちも考えようとしんない

んだ?! お前ら知ってるか? あいつがなんで退院そうそう、無理を承知でここまで来たか。

今村

い、伊藤、よせ。

伊藤

いや、言わせてくれ。(生徒らに)いいか、お前ら。あいつはな、今日ここまで来るのに、何度も何度もつまずいて、しまいには脂汗流しながら、「今日はどうしてもみんなに会って一言謝りたいから」ってやってきたんだ。それをお前ら、2 か月の間、だれ一人見舞いもせず、やっと来たのに言葉一つかけず、そればかりか足蹴^{あしげ}にして高見の見物だ。お、お前ら、それでも人間か?(泣きだす)

ナレーション

一瞬、クラスは水を打ったようにシーンとなりました。クラス中の目が、なおも必死に立ち上がろうとする今村君に注がれました。と、さっき今村君に足をかけた友人が――。

男子A

今村、悪かった…。

ナレーション

…と言いながら、彼の元に駆け寄ると、ほかのみんなも――

数人

「今村、ごめん」「悪かった」「痛いか?」「大丈夫か?」

ナレーション

…と言いながら駆け寄り、彼を抱き抱え、席に着かせてあげたのです。長い間シラケきっていたクラスの中に、いいえ、一人一人の心の中に、その時、本当にあったかいものが流れ込んだようでした。

聖書の言葉

何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。(ペテロの手紙第一 4:8)

<完>